

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
98	川崎市立南生田小学校	羽深 東

学校教育目標	今年度の重点目標
心豊かで自らよく学び、たくましく活躍できる子どもの育成	①生涯を豊かに生きる力の育成 ②自信をもち、豊かに人とかかわる子の育成 ③すべての子を対象とした支援教育の実施

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 基礎的知識・技能の 確実な習得と活用、 応用	<ul style="list-style-type: none"> ・昼に週3日、1日15分の学習時間を設け、漢字や計算の習得、読書の時間とする。 ・学習規律の確立 ・個別の課題に応じた指導 	<p>昼にモジュールとして行った学習では、漢字の習得や計算のスキル向上を図った。各担任が学級の実態に合わせて、内容を工夫した。結果として、授業への意欲向上が感じられるようになった。読書をすることにより、午後の生活に落ち着きが見られるようになった。</p>	<p>意欲の向上は見られるが、確実な習得という観点からはまだ課題がある。そこで、授業では個別最適な学びを意識した授業改革をより意識して取り組む。また、各担任が基礎学力の向上を意識してた宿題の内容にする。さらに、個別対応が必要な児童には、保護者と共通理解を図り別室での指導を行う。その際は、そこで指導する教員と担任との情報交換を丁寧に行う。</p>
2 話し合いを通して、 自らの考えを深める 学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究による取組 	<p>校内研究では、国語の授業研究を行った。テーマを「自分の考えをもち、伝え合う子の育成」として、子ども自身にどうやって考えを持たせるか、その考えをどのように分かち合うかについて学んだ。座席表やGIGA端末を使って、担任が子どもたちの現状を把握し、個に応じた適切な助言をすることにより、子ども一人ひとりが自分の考えを深めることができた。自信をもって発言する後押しもできた。</p>	<p>各学年ごとに、どのような話し合いの姿を求めていけばいいのか、まだ不明確なままとなっている。今後も研鑽を重ね、学校全体で、各学年の到達目標を理解し、自身の学年の指導に生かすようにしていく。また、子ども間でGIGA端末から、他の子どもの考えを知り、自ら積極的に関わっていく姿が見られるように、授業を高めていきたい。</p>

3	自ら課題に取り組む習慣の確立	・家庭学習の取組	与えられた課題に取り組む宿題だけではなく、子ども自ら課題を考えて取り組む家庭学習を始める学年が出てきた。始めたころは戸惑いも見られたが、学習に向かう意欲の高まりは見られるようになった。	高学年では、興味関心だけでなく、子ども自身が自分の実態を知り、実態に合った家庭学習に取り組むことができるように工夫をしていきたい。
4	互いに良さを認め合い、協力し合う学級づくり	○学校、学年、学級目標を常掲し、学級集団づくり等の目的意識の継続 ○異学年交流から生まれる、他者理解を大切にしたい学校づくり ○効果測定の変容等の分析による客観的な学級経営、ケース会議等の実施	効果測定を実施して、学年ごとに検討会を開いた。明らかになった課題に対して、担任が個別に面談をしたり、意図的な席替えを行ったりして、学級での良好な人間関係づくりに努めた。 音楽集会では、2学年ごとに行った。お互いの学年で手を振り合う様子が見られるなど、学年が違っても、関係性を深められていることが確認できた。 児童アンケートの実施時期の見直しや、児童観察、担任と児童との良好な関係づくりが、いじめの早期発見につながった。いじめの疑いに気づいた時は、該当学年・Co・管理職が即共有をして、対応の検討を行い、解決に努めた。	いじめに対して迅速に対応したことで、問題の早期解決ができて、後に引きずる事案はなかった。今後はいじめ自体が起きないようにするための手立てを強化していかなければならない。いじめを起こさないように、子どもたちの自己肯定感を向上させたい。そこで、来年度は、個別最適な学びを意識した授業の改革に取り組み、学校生活への充実感や喜びを味わわせ、自らを高める思考へと意識を向かわせたい。
5	道徳教育・人権尊重教育等を基盤とした心の育成	○道徳教育・かわさき共生*共育プログラムの充実(集団への帰属意識、自己肯定感の向上) ○子どもたちに人権について考える機会の設定 ・5月、11月の児童生徒指導点検、強化月間での指導の充実 ○あいさつ運動の慣行	人権・生命尊重教育の実施、全児童によるいじめのない学校づくりの意見表明等を行い児童の自浄力を高めた。 「かわさき共生*共育プログラム」を年間6時間を実施して、人とのかかわり方を学んだ。 児童の生活振り返りアンケートをもとに、いじめ防止や人権意識についての丁寧な対応を行った。児童指導上の課題について、保護者と連携をとり、児童の気持ちを最優先しながら対応を考えた。	あいさつ運動を行っているときは意識できているが、運動が終わると、徐々にあいさつができなくなってくる。職員同士のあいさつも少ない傾向があるので、まずは大人から意識を変えていきたい。 外国籍の児童も増えてきて、増々インクルーシブ教育が求められている。相手の人格や人権を尊重できる教育を進めていきたい。

6	自立した生活習慣	<p>○学年の実態に応じた生活目標の指導</p> <p>○個に応じたためあてづくりと振り返りの重点化</p> <p>○学校生活や社会のルールを順守する態度の育成にかかる、全職員が学校スタンダードを共通理解した上での指導の実践</p>	<p>毎月の昼の会で生活指導とその振り返りを、学年児童によって行い、自分事として生活習慣の確立を目指した。保護者や児童の肯定的評価は高いが、教職員は昨年に引き続き低いままだった。</p> <p>年間計画に位置付けた保健安全教育、食育等について、継続的な取り組みを図ってきた。</p> <p>児童が自主的に衛生管理ができるよう、養護教諭が中心となって指導を行った。3年生には、保護者の協力も得ながら歯磨きの指導を行った。</p>	<p>何をもって自立しているかという観点で、保護者・児童・教職員の間で統一を図っていない。そのため、評価に隔たりがおきていると考えられる。同じ観点で、生活習慣の自立を育てていきたい。</p> <p>学校生活のルールへの考え方が、社会の変化とともに変わってきている。改めて、学校スタンダードを白紙の状態で見直し、変更が必要な場合には、恐れずに実施していきたい。また、PTAの役員会などで、教職員以外の意見も積極的に聞いていきたい。</p>
7	地域社会と連携した、安心・安全な環境	<p>○学校運営協議会(コミュニティスクール)の推進</p> <p>○地域防犯・防災活動の強化、パトロールボランティアとの連携・保護者との協力強化</p> <p>○各種ボランティア等の募集による教育活動の充実、拡充</p> <p>○幼保小連携、小中交流の推進、充実</p> <p>○地域教育会議の充実</p>	<p>○南生田中と連携し、コミュニティスクールの推進に取り組み4年目を迎えた。委員からの意見も活発で、充実度が高まってきている。</p> <p>○毎月28日の「多摩区見守りの日」を継続し、警察・学校・地域全体で子どもの安全を見守った。</p> <p>○小中連携の充実に向けて、小中合同授業参観を行った。また、中堅教諭研修でも、中学校から授業を学ぶことができた。</p> <p>○保護者・教職員での地域行事へのパトロールに参加し、交流を図った。</p>	<p>教職員間で、学校運営協議会に対する理解が深まっておらず、直接会議に参加している教員との温度差がある。学校は、学校単体で運営されているものではないという意識を高めていく啓蒙が必要である。</p> <p>PTAの校外パトロールが形骸化してきている。改めて、地域の安全は自分たちで守らなければいけないという意識を、PTAの総会や入学説明会などを通して強化していきたい。</p>
8	保護者や地域への情報提供、学校行事等への参加の促進	<p>○学校からの定期的また即時性のある情報発信</p> <p>○学校ホームページの充実と有効活用</p> <p>○参観日や授業公開日による学校公開</p>	<p>通知表に前期の所見がなくなったことにより、個別面談を行い、成績について丁寧に説明を行った。そのことにもなって、前期の終わりの学級懇談会を行わなかった。</p> <p>授業参観日を土曜日にしたり、全日の授業参観日を設けるなどして、保護者が学校に足を運びやすいように心掛けた。多くの保護者の参観につながっている。</p>	<p>学校説明会や学校報告会への参加者が少ない。今後とも魅力ある会になるように努めるとともに、参加しやすい会の持ち方を検討していきたい。</p> <p>学級懇談会は減ったことによって、学級の様子を伝える機会も減ってしまった。学級だよりを定期的に発行するなど、何かしら学級懇談会に変わる伝達方法を模索したい。</p>

9	<p>児童が安全に生活できる学校施設、設備の維持・改善</p>	<p>○校舎内外の施設の点検等の実施(月点検及び清掃時の点検の実施) ○6年、中学生による地域清掃活動の実施、委員会活動等の自主的活動の充実 ○ミマモルメによる児童の安全を確保するためのメール配信</p>	<p>学校評価結果から、環境整備面の項目に対して児童や保護者からは高い評価を得ているが、教師の評価が低い。 営繕箇所が多く、環境整備に申請してもなかなか改善されなかったり、時間がかかったりすることが多い。 ミマモルメにより、校外学習の様子や不審者情報などをできるだけ細かく丁寧に保護者に伝えた。</p>	<p>児童に事故やけががあった場合は、速やかに現場を確認して対応する。児童の安全を最優先に、学校内でできる修繕はすぐに行う。</p>
---	---------------------------------	--	---	--

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の評価が高く、教職員の評価が低いことを前向きにとらえていいのではないかと。学校は自信をもって取り組んでほしい。 ・子どもの自己肯定感を高めることはとても難しい。どうやって高めていけばよいか。 ・災害時に学校が避難場所になった時に、中学校とのすみ分けがはっきりしていないので、考えておく必要がある。 	<p>学校教育目標の実現とそのことに対する意識の向上のために、評価項目を精選・変更をしたい。また、校務分掌も併せて、学校教育目標を意識できる組織図にする。それぞれの部署で総括教諭が中心になり、責任感をもって、担当となる、学校教育目標の項目の実現にあたる。</p> <p>また、自己肯定感を高めるためには、個別最適な学びを意識した授業改革は必須と考えている。児童一人ひとりが学校に楽しさを感じる場面が増えれば、不登校対策にもつながってくると思う。</p>